いたちがわらばん

通刊５１号　鼬川・独川 / 川原番・瓦版　'10 秋号

【版画　宗森英夫】　（下流から見た尾月橋）

オオブタクサ

いたち川の河原のオオブタクサが、去年今年と大繁殖している。北アメリカ原産の外来種で、種子が穀物や豆類にまぎれて侵入したと考えられている。

密生するうえ三メートル以上にも伸びるので見通しが悪くなり、七月後半からは川面が見えない区間があちこちに出来る。そして、増水時には川の流れにも影響する。

しかも、スギ、イネ科の植物とともに三大花粉症の原因にもなっているから、景観上だけでなく防災上も防犯上もそれに健康上から云っても、迷惑至極な草である。

とはいうものの、この話をオオブタクサの側から見れば、人間が勝手に種を運んだために見知らぬ外国に連れてこられ、苦労してどうにかこの地の環境に適応してみたら、迷惑な雑草として目の敵にされる。

去年と今年のいたち川での大繁殖だって、春先に河川敷の枯れ草をきれいに除去して、わが種子の一斉発芽条件をわざわざ揃えたのは人間ではないか。それなのに文句を言われるなんて、こんな理不尽な話はない。そう思っているに違いない。

オオブタクサに限らずアレチウリやセイタカアワダチソウなど迷惑な外来種の雑草は多いが、彼らには彼らなりの言い分やストーリーがあるのである。

ならば、秋の夜長に月でも眺めながら、わが日本から遠く海外に連れ出され、世界中で迷惑がられているクズの艱難辛苦に想いを馳せてみるのも悪くはあるまい。

（一竿）

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です

いたち川で見られる帰化植物

ヒガンバナ

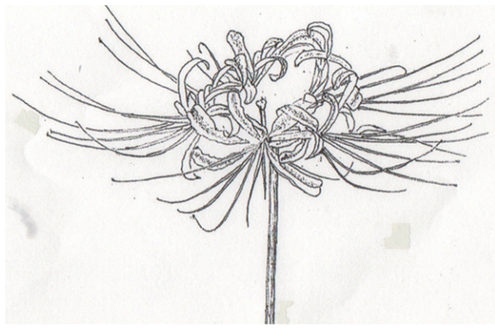
ヒガンバナはその名の通り秋彼岸の頃咲く球根性の多年草。いたち川の河原でも何か所かで咲きますが、よく田の畦や土手、墓所などでまとまって咲いているのを見かけます。

球根にリコリンという強毒を持つなど草全体が有毒なので、ノネズミやモグラなどが近寄りません。そこで水漏れの原因になる穴をあけられないようにするためや土葬した遺体が動物に荒らされないようわざわざ植えたようです。

「ヒガンバナが日本に来た道」（有薗正一著、海青社）によると、原産地は中国の長江上流。日本へは縄文晩期に稲作とともに持ち込まれたとあります。帰化植物の元祖みたいな花ですね。別名曼珠沙華（まんじゅしゃげ）。天上の花という意味の梵語に由来するそうです。

秋の初めに花茎だけ伸ばし１本の花茎に６～７個の朱色の花を輪のように咲かせます。葉は花が終わってから茎のないロゼット状に生えますが、春になるとその葉も枯らして、秋まで地上部にはなにもない状態になります。

不思議なことに日本には雌株しかありません。当然種子による繁殖は出来ないので、中国から伝わった１株の雌株から株分けを重ねて、ついには日本中に広まったと考えられています。昔の人とくに稲作を始めた頃の縄文人や弥生人たちが大事に増やしたのでしょう。



いたち川知り隊報告（2010 年夏）

恒例となった「いたち川知り隊」は予定日が雨天のため延期され、予備日の８月２日に扇橋の水辺を中心に実施されました。

参加者は対象の小学生が計 35 人。学年別内訳は１年 10 人、２年 10 人、３年 11 人、４年３人、６年１人。ちなみに保護者を含めた合計は 51 人です。学童定員は 60 人でしたから、残念ながら延期によってかなりの学童が参加出来なくなったようです。

今年も調べたのはいたち川の植物、水質、魚類、水生生物の４項目です。はじめにスケジュールの説明や熱中症などへの注意の後、２班に分かれて植物観察に出発。両班とも扇橋の水辺から稲荷森の青葉橋までの両岸を 40 分余りかけて植物を観察しながら往復しました。熱心にメモをとりながら歩く学童が多く、事前に準備した約 40 種の８割程度しか説明できませんでしたが、肝心なのは子どもたちに植物への興味や関心をもってもらうことなので、説明する種の数は問題ではありません。

植物観察の後は３班に分かれて、横浜市環境創造局環境科学研究所の皆さんの指導により、それぞれの班が水質、魚、水生生物の３つの調査をしました。魚と水生生物の調査は学童たちが実際に川に入って捕獲しました。なかなか取れないにもかかわらず、みな時間まで夢中になっている姿が印象的でした。水質は良好でしたが、ほとんどが低学年の学童でしたから少し難しかったかも知れません。

最後に全員が集合してまとめを行い、予定より若干遅れて 11 時 40 分過ぎ解散。植物観察の途中でにわか雨がパラついたりしましたが、事故もなく無事終了しました。

当日確認したのは以下のとおりです。

[植物] ヒルガオ、ハルジオン、ハンゲショウ、サンシュユ、ハゼノキ、シモツケ、ヤマユリ、タケニグサ、ヒヨドリジョウゴなど 30 種余り。

[魚類] オイカワ、シマヨシノボリ、コイ、アブラハヤ、タモロコ。

[水生生物] ミズムシ、トンボの幼虫（ヤゴ）、シマトビケラ、プラナリア、シジミの仲間、アメリカザリガニ。

発行年月 2010年 9月
通刊51号

発行：独川 OTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）
OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247 - 0005　横浜市栄区桂町303 -19
TEL 045 - 894 - 8161　FAX 045 - 895 -2260
栄土木事務所下水道・公園係　〒247 - 0007　横浜市栄区小菅ケ谷 1- 6 -1
TEL 045 - 895 - 14 11　FAX 045 - 895 -1421
（お便り・お問い合わせは こちらまで）

いたち川の幻の水源を探る　ーその３ー

本誌５０号では、いたち川上流域の幻の水源を探るため、６０年前の地形図を元に当時の地形を地図から読み取りました。今回は紅葉橋から下流で見られる流出地点を手がかりに同地形図を利用して幻の水源を探してみたいと思います。

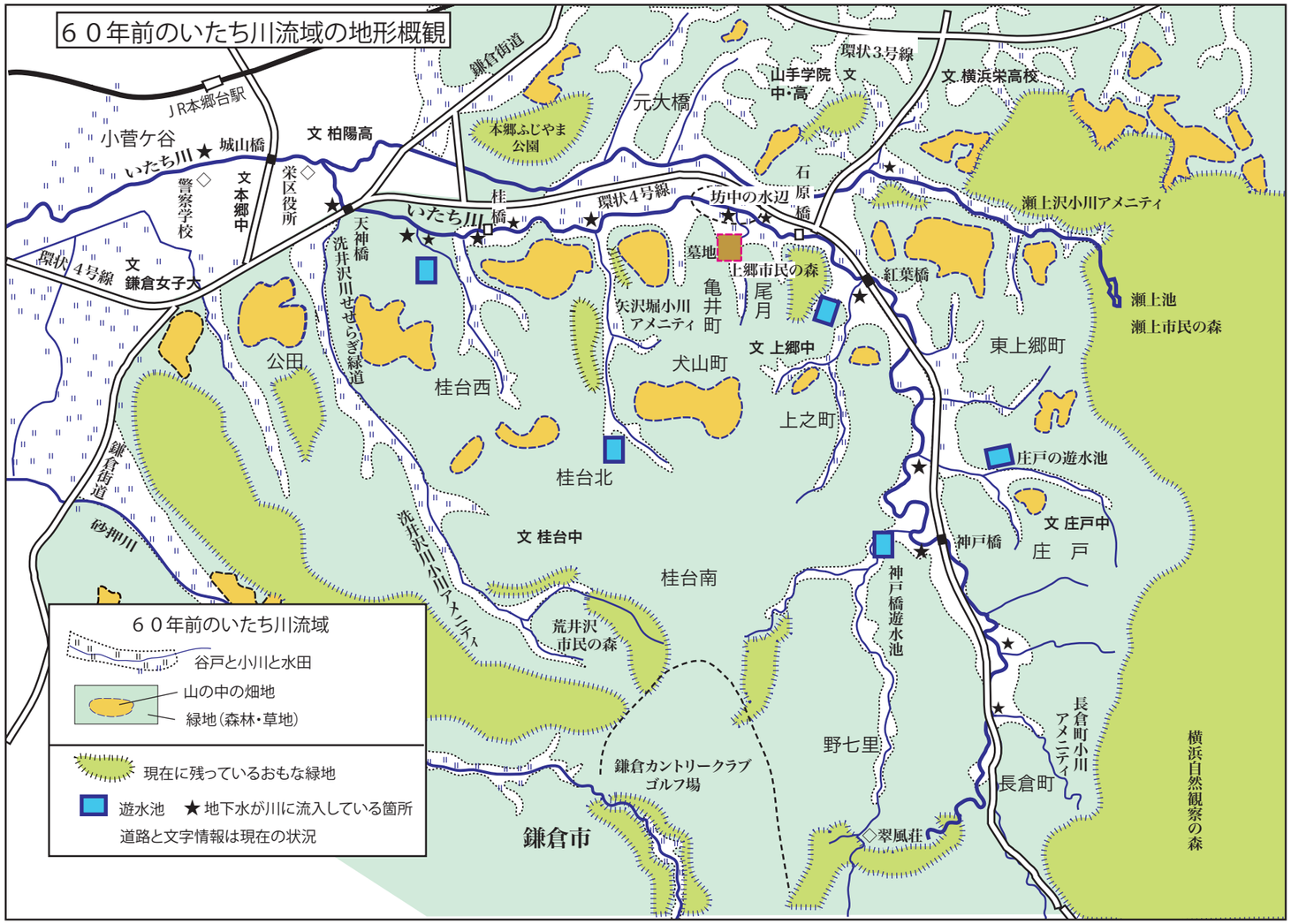
８月２８日猛暑のなか、流出地点を再確認するために坊中の水辺から最下流のいたち川橋間を散策しました。８月になってほとんど雨が降っていないことから流出地点の水量は以前の調査時に比べると極端に少なくなっていて、水の流出をほとんど見ることができない箇所もありましたが、川には夏草が繁茂し、なかでも水辺の周囲を覆うオオブタクサは特に元気です。高さ３ｍになろうかと思われる群落が数箇所にわたって見られ、あまりの繁殖で川の水面が隠れて見えない箇所がいたるところで見られ、その凄まじい生命力には驚きました。

いたち川は上郷市民の森の麓で流路を北から西に変え下流に向かいます。中流域の紅葉橋から天神橋の間で現在でも小川として流れをとどめているのは、矢沢堀小川アメニティと洗井沢川せせらぎ緑道となっている二つの小川のみです。他の谷戸は宅地造成のさいに埋められ小川を見ることができません。

かつて、この地域は標高６０～８０ｍの丘陵地が広がり、その中に６箇所の小さい谷戸があり、谷戸は水田になっていたようです。初夏の頃には蛍が飛び交う小川がありました。当時のいたち川の水量は今よりもっともっと多く、川には堰が造られ、水車小屋があり、用水路がひかれ、そこは同時に子供たちの遊び場所でもありました。

また、現在の円海山周辺で見られるように、丘陵地のなかの比較的平坦な場所はほとんど畑になっていたようです。古老の話によりますと、桂台のイトーヨーカドー周辺には広い茅場があったそうです。上郷市民の森の麓に立つ日枝神社が旧地形図では、今の桂台東辺りに表示されています。現在これらの丘陵地は宅地造成によって消滅し、谷戸は地中に姿を消し、かつての谷戸の水は雨水と共に地中の導水管を経ていたち川に流入しています。これらの流入箇所の中で紅葉橋下、坊中の水辺左岸、桂橋近くの３箇所は特に水量の多さが目立ちます。紅葉橋下に流入する水源については５０号で解説しましたので、本誌では坊中の水辺左岸から流出する水源と桂橋脇の水源を探ってみます。

坊中の水辺左岸の水源の背景となる地形は、地形の傾斜から判断して上郷市民の森、尾月住宅、亀井町、證菩提寺の墓地、犬山町の一部を水源としていると思われますが、その面積は桂台住宅地のように広くはありません。広くないのにどうして水量が多いのでしょうか。私は次のように考えました。上郷市民の森は５ha と広くはないが、杉・檜・樫類の大木が多く、雑木に比べ保水力が大きいこと、墓地には導水管を必要としないので地下保水力がある。亀井町はこの地域では早い時期に造成された住宅地なので自然の地形を保持した造成がなされ、地中の導水管の埋設が不十分なため、雨水の排出が不十分で雨水による地中保水力があることなどが推測されます。このような理由で通常の流出がほかより多いように思います。



桂橋近くの枡形の排水溝から流出する水源は、背景となる地形は現在の桂台西周辺が主な水源域と考えられます。この地域は緩やかな傾斜地がかなり奥まで続いていることが特色です。広い緑地は残っていませんが、いたち川近くの南斜面にわずかに残っていた緑地が３年ほど前に宅地になりましたので今後の保水力は多少低下して、これまでのように多くの水量は望めなくなると思われます。

いたち川の支流がつくった最大の谷戸は瀬上沢、次が洗井沢です。瀬上沢は自然の原風景が比較的残されていますが、洗井沢の場合は流域の都市化が進み源流域の荒井沢以外は小川の大部分が暗渠となって天神橋の下を潜り向こう側でいたち川に合流しています。そのほかの地点からの流入は、瀬上沢の増水時に石原橋近くに流入する分流と、下流域の栄第一水再生センターから大量の処理水が警察学校正門対岸で流入しています。

以上、いたち川中流域について昔の地形を再現させながら現在のいたち川の水源を紹介しました。添付の地図につきましては、多様な要素が絡んで表現され、理解しづらい表現になりましたことをお詫びします。栄区役所のホームページからご覧いただきますとカラーで見られますから多少は見やすくなります。

地図についての補足

○天神橋から上流の白い地色部分は、家屋を含めた畑・菜園など

○緑地の部分の中に点線で点在しているのは、緑地（森林雑木）の中で耕していた畑（果樹・菜園など）

○参考資料：国土地理院発行の旧地形図 5000 分の１、最新の１万分の１地形図、栄区役所発行「いたち川散策マップ」他

（ワンダー谷渓）